

観光マネジメント学科開設記念シンポジウムに参加して 「跡見流こだわり旅と観光女子力とは」

2010年12月18日に、跡見学園女子大の観光マネジメント学科開設を記念し「観光立国日本 跡見流こだわり旅を考える」と題したシンポジウムが開催された。シンポジウムには溝畑宏観光庁長官をはじめ、業界の第一線で活躍しておられる実務家をお招きし、基調講演並びに、パネルディスカッションに参加して頂いた。なにより、このシンポジウムの企画・運営は学生が主体となって取り組んでいこうという先生方の提案により、同年11月に結成した「ニューツーリズム研究会」のメンバー25名を中心に企画を進めた。その中で、私たち二人は学生代表として学生プレゼンテーションとパネルディスカッションの学生パネラーを務めさせて頂いた。シンポジウムに私たち学生が参加するにあたり、観光立国日本の現状を知った上で幅広い観光の知識が無ければ学生プレゼンはおろか、観光振興の最前線にいるゲストの方々とディスカッションなど行えるはずがない。そのため開催が決定して間もなく、観光マネジメント学科の先生方より幾度となく授業とは別に特別講義を受け、また様々なテーマで自らの視点から観光振興策を考案した。このように短いながらも内容の濃い準備期間を経て当日を迎えることができた。今回は当日のプレゼンテーションから抜粋した内容を記載する。

現在、日本政府が「環境・エネルギー大国戦略」をはじめとする7つの成長戦略を掲げており、このうちの一つには「観光立国・地域活性化戦略」が含まれている。観光による地域活性化戦略は、地方と都市部との格差是正が課題となっている現在の日本において、観光により流動人口の創出を図るといった、より現実的で即効力のある成長戦略であるといえる。このように国家戦略としても観光が注目されているが、私たちは、『観光は人間力』であると、授業の中でよく感じている。おもてなしの心は、ハードである施設や風景から感じることはできず、人であるからこそ思いやりを持つことができ、おもてなしをすることができるのだ。また、「女性力」とは、女性が持っている優しさ・気配り・教養といった、日本女性の古来からの強みを活かしたものであり、女性力と日本の旅の魅力は、強い結びつきがあると考えている。例えば旅館は、女性である女将さんを筆頭に、従業員の方の思いやりで成り立っていると言っても過言ではなく感性を活かした繊細な空間づくりも、女性ならではの心意気である。

これらの考えから、観光に必要である「人間力」に「女性力、若い力、女子学生力」を加えていくことを跡見流こだわり旅として提案した。例えば、現在注目されている「医療観光」において、私たちは女性の視点から、関心が高い“美容、低カロリーな日本食、長寿”の三つに重点をおいた『美容観光』という形で注目していくべきだと考えた。また、ファッションショーなどを開催する際に、日本人の器用さを利用したネイルアートやヘアアレンジの体験、健康的な日本食をアピールするために料理教室の開催、ただの温泉ツアーだけでなく温泉文化、日本の昔ながらの湯治を体験するなどのツアーを行い日本で元気になってもらいたいと考えた。その他にも学生による学生のためのツアーも提案した。

また、「スチューデントアンバサダー」と名付けた観光大使として、学生が日本の観光振興の第一線で活躍したい、といったことを観光振興戦略として述べ、以下のことを提案した。一つ目には外国人観光客を受け入れる私たち日本人の意識改革だ。受入環境の整備には国民全員が観光大使としての意識を持つ、つまり私たちの意識改革が不可欠だと考えられる。現在の日本は観光立国実現への意識が低く、観光立国への不安があることも実状である。そこで、シンポジウムなどを多数開催し、わたしたち国民が日本文化や日本の良さを再認識するところから始めていくことが必要なのだ。

二つ目は、学生がガイド役を務め一緒に観光地を巡るボランティアガイドだ。頭で覚えたことでなく実際に学生のうちから経験することが将来的な人材の育成に繋がると考えられる。

三つ目には大学を観光資源として活用していきたいというものだ。跡見を例にした場合、歴史が古いことからハイカラさんスタイルの発祥地として有名だった。そこで袴の恰好をした観光学科の学生が案内役を務め、訪日外国人向けに大学を開こうと考えた。また、桜は跡見学園女子大学のシンボルであり、その魅力的な桜を資源としたお花見が行なえる。他にも袴の着付け体験、お茶室を利用した茶道や華道体験、学食での日常的な和食体験、我が校の「百人一首コレクション」を利用した伝統的な文化体験などを実施することが出来る。さらには、大学を拠点として地域全体を知って見てもらうことも考えられる。

このように、シンポジウムでは様々な提案をさせていただいたのだが、観光を学ぶ上では大切なことがある。それは「実践の必要性」だ。観光は頭で理論、理屈を考える机上の勉強だけでは補えない部分が多くあり、「学んだことを出来るに変える力」こそ、が求められるのだ。そこで、全国の観光を学ぶ学生達が、全国民が観光大使となる先駆けとして「スチューデントアンバサダー」になるべきなのだ。私たちはこのような貴重な機会に参加できたことを糧として、跡見の観光マネジメント学科の第一期生として、観光に関する深い研究を進めて行きたいと考えている。

観光マネジメント学科 学生 藤川 愛未・高橋 侑子

跡見学園女子大学 観光マネジメント学科開設記念シンポジウム
『観光立国日本 跡見流こだわり旅を考える』プログラム

2010年12月18日

13:30	■主催者挨拶	山田 徹雄 跡見学園女子大学学長
13:40	■基調講演 「観光立国の実現に向けて 観光を学ぶ学生に期待するもの」	溝畑 宏 観光庁長官
14:10	■学生プレゼンテーション（学生代表者） テーマ 「跡見生たちからみた日本の魅力・日本の旅」 ～「跡見ニューツーリズム研究会」の検討を踏まえて～	
14:25	■新学科及び教員紹介	小川 功 跡見学園女子大学 マネジメント学部 観光マネジメント学科主任
14:30	休憩（15分）	
14:45	■学生による提案型パネルディスカッション テーマ 「女子大生からみた次世代ツーリズムと旅の魅力」	コーディネーター 丁野 朗 ゲストパネラー 溝畑 宏 政所 利子 鈴木 道明 塩月 亮子 学生パネラー 跡見ニューツーリズム研究会より 学生代表者
16:00	■終了	

